

事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社ステムセル研究所

2026年6月23日



事業内容

さい帯血 = 「へその緒（さい帯）の中」を流れる血液

赤ちゃんとお母さんを結ぶ

「へその緒」や「胎盤」を流れている、出産時にのみ採取できる貴重な血液。

血液や神経などに分化する

「幹細胞」が豊富に含まれている。

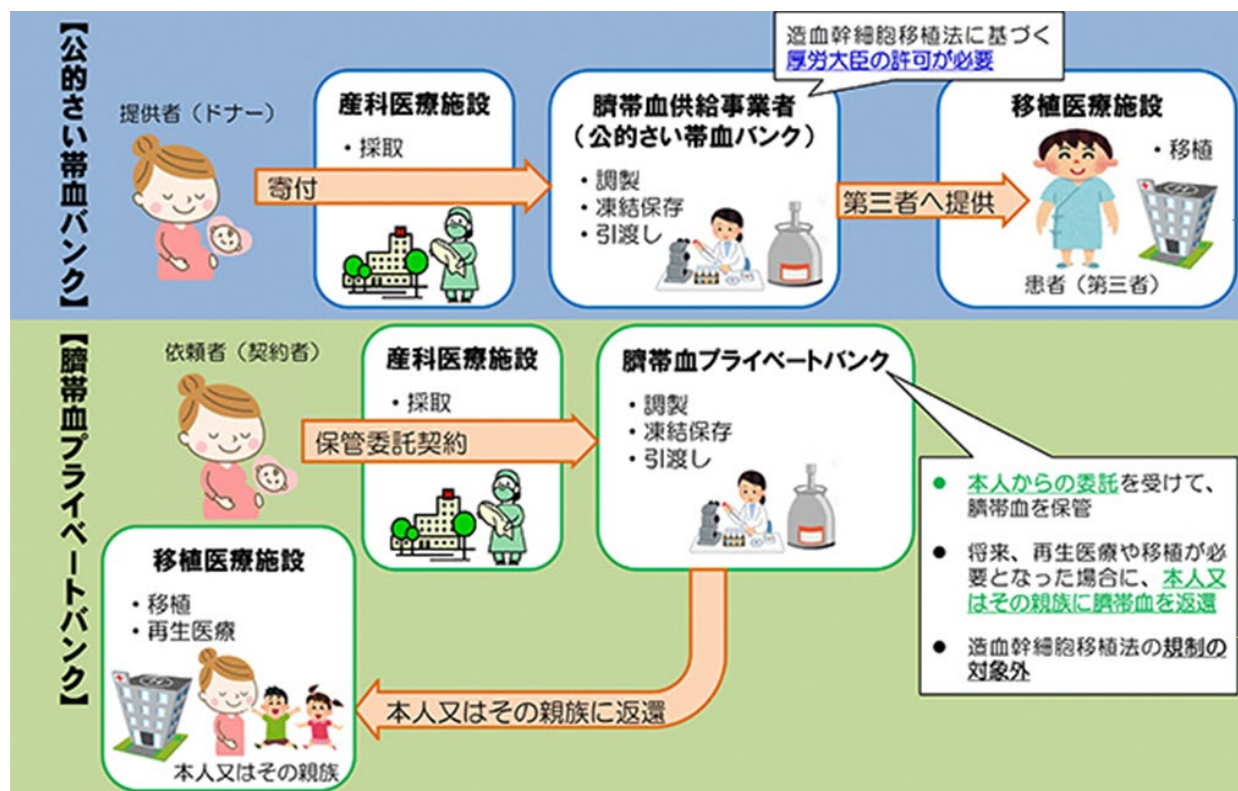


**再生医療・細胞治療での
活用が期待されている**

さい帯血から採取できる幹細胞の特徴

- ▶ 母子ともに痛みや危険を伴わずに採取可能（非侵襲性）
- ▶ 自分の体の中にある細胞（体性幹細胞）であるため、**ガン化のリスクも少ない。**
- ▶ 生まれたての未熟な幹細胞で、**外部環境による影響（遺伝子変異）が少ない。**
- ▶ 成人から採取できる幹細胞に比べ、**増殖性に優れている。**
- ▶ 通常は医療廃棄物となることから、**倫理的な問題が少ない。**
- ▶ 出生から小児までの間に再生医療を行う場合の**貴重な自家細胞ソース。**

公的バンクは厚生労働省健康局の「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づき、白血病を含む27種類の難治性血液疾患を対象に、第三者の治療に役立てるために寄付し、保管されております。民間バンクは厚生労働省医政局の「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づき、脳性麻痺や自閉症スペクトラム症候群などを対象疾患とし、再生医療を目的に赤ちゃん自身やそのご家族のために保管されます。両者は違う法律のもと、それぞれが独立しており行き交うことはありません。また民間バンクは許可制ではなく、一方で、厚生労働省へ臍帯血取扱事業の届出が要請されており、年度ごとに保管検体数および廃棄検体数の報告が求められております（2025年3月31日現在、当社を含め2社）。



公的バンクでは、第三者の治療（白血病など）に役立てるために寄付し、保管されます

民間バンクは赤ちゃん自身やそのご家族の将来のために保管します

(厚生労働省Webサイト https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/ishoku/saitaiketsu.html より)

さい帯 = 「へその緒」

さい帯（臍帯）

さい帯血とは
異なる種類の幹細胞
（間葉系細胞）
が含まれている。

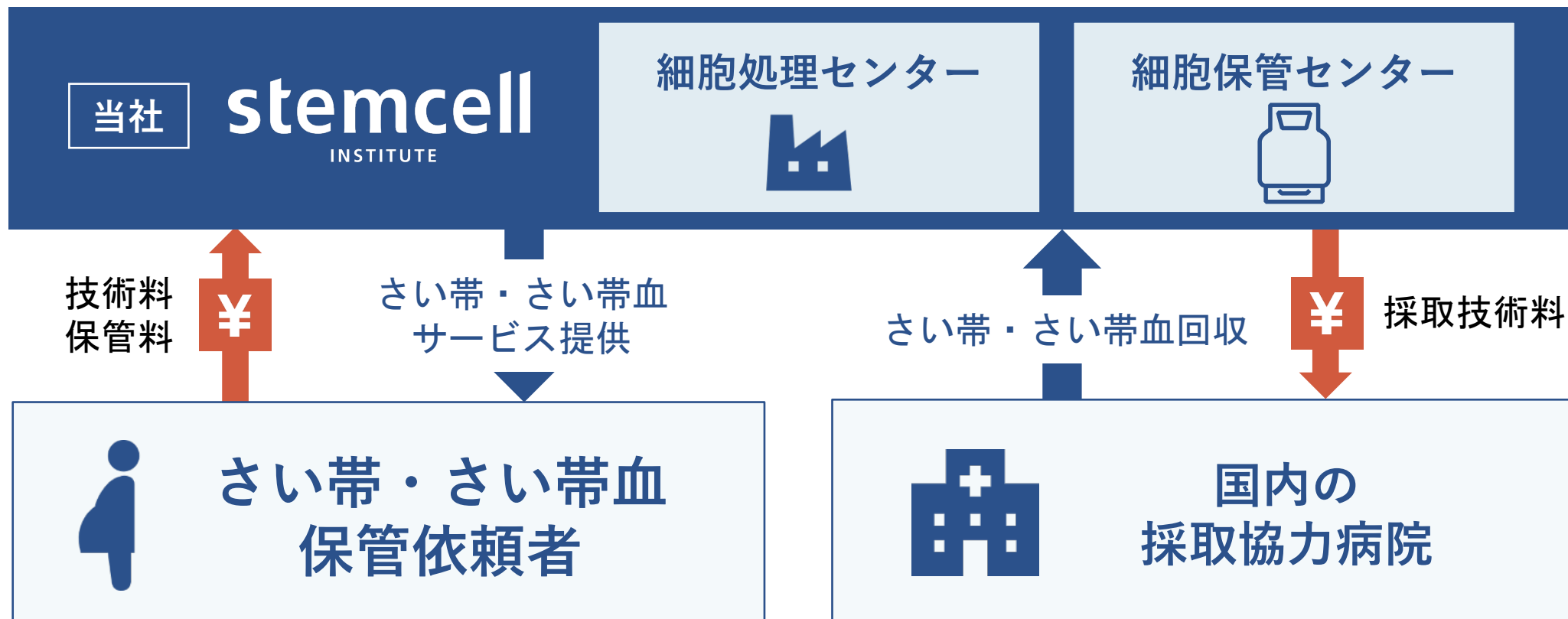


さい帯血・さい帯の両方を
保管しておくことで、
将来の利用に向けた
選択肢が広がる

間葉系細胞の特徴

- ▶ 免疫調整、抗炎症、組織修復作用を有し
再生医療の分野において
国内外で活発に研究が進められている。
- ▶ 治療が試みられている病気は、**神経性疾患、
呼吸器疾患、移植後の合併症の抑制**など多岐にわたる。
- ▶ 他家のさい帯組織由来間葉系細胞を用いた
臨床研究において、2025年の報告※によれば、
900を超える投与例が報告されている。

※Mesenchymal stem cells in treating human diseases: molecular mechanisms and clinical studies
（同論文においてUC-MSCとして整理された臨床研究の症例数を当社集計）



提携施設数 **約1,500軒**

(参考：全国の分娩取扱施設数 2,075軒※)

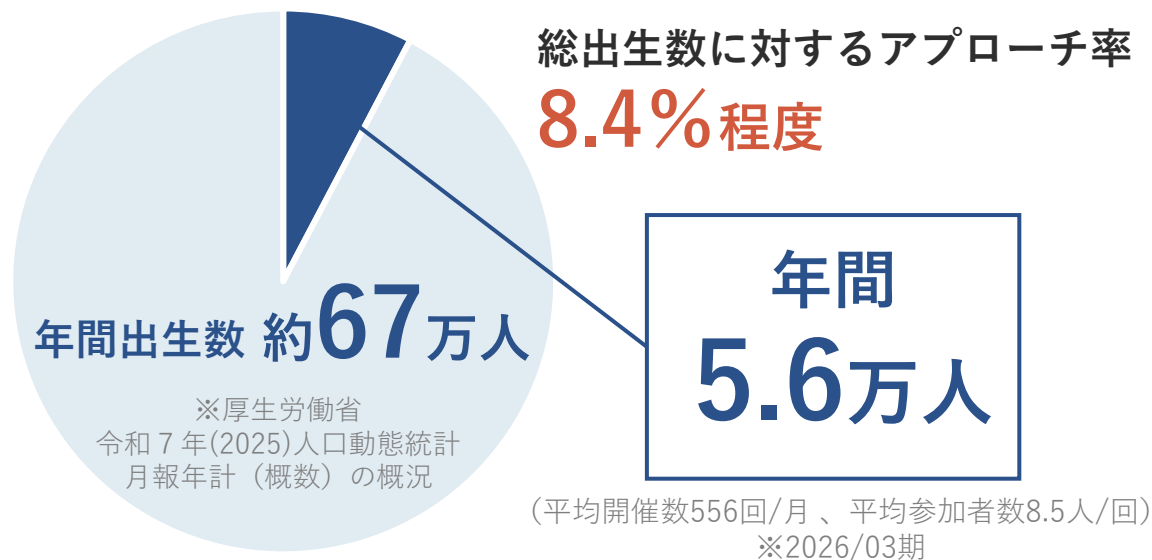
民間さい帯血バンクのパイオニアとして
全国の産科施設へのネットワークを構築

※ 厚生労働省 第5回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会」資料
「出産なびの運用状況等について」より

母親学級スピーチ

協力産科施設で開催される母親学級※において、
さい帯・さい帯血保管サービスを紹介

※出産の情報（授乳等）について施設側からレクチャーするクラス



営業強化によりスピーチ獲得数が増加
年間参加者数は4.7万人(2025/03期)から
5.6万人(2026/03期)へ拡大

マタニティイベント・セミナー

全国各地で開催されるマタニティ関連イベントに
出展し、直接対話を通じて見込み顧客を獲得



ステージイベント



ブース出展

イベント出展による顧客接点の特徴

- ▶ 妊娠・出産への関心が高い層に直接アプローチ
- ▶ 本人だけでなく家族を含む意思決定層へ訴求
- ▶ 個別対応を通じて検討度の高い見込み顧客を創出

デジタルマーケティング

オンライン広告・SNS等のデジタル接点を通じて、安心感のある情報発信とサービス紹介を実施

▶ Web広告配信 (2020/06より開始)

Google、Yahoo、Instagram、LINEといった複数の媒体で広告配信を行い、多方面から資料請求コンバージョンを獲得



▶ SEO対策強化 (2020/11より開始)

▶ SNS運用

Instagramにて、公式アカウントを運用投稿やストーリーのほか、インスタライブにて妊婦向けの情報を発信

(2020/11より開始)



▶ HP (妊娠・出産お役立ちコラムサイト)

医師・助産師監修のもと、さい帯・さい帯血をはじめ妊娠・出産に関する情報を分かりやすく発信する当社オリジナルのコラムサイト

▶ 動画コンテンツの拡充

サービス理解の促進および検討顧客の不安解消を目的に、動画コンテンツを活用



▶ 妊婦向けアプリと共同オンラインセミナー (2024/09より開始)

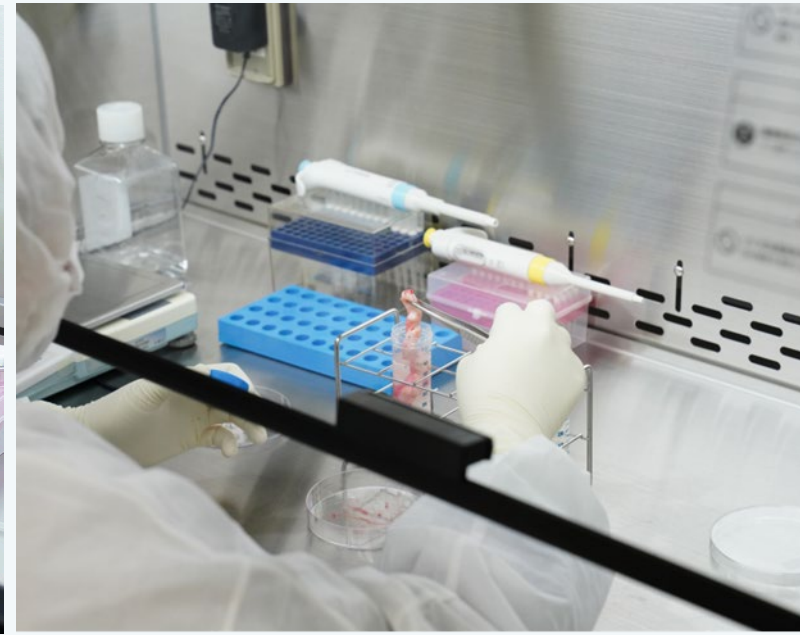
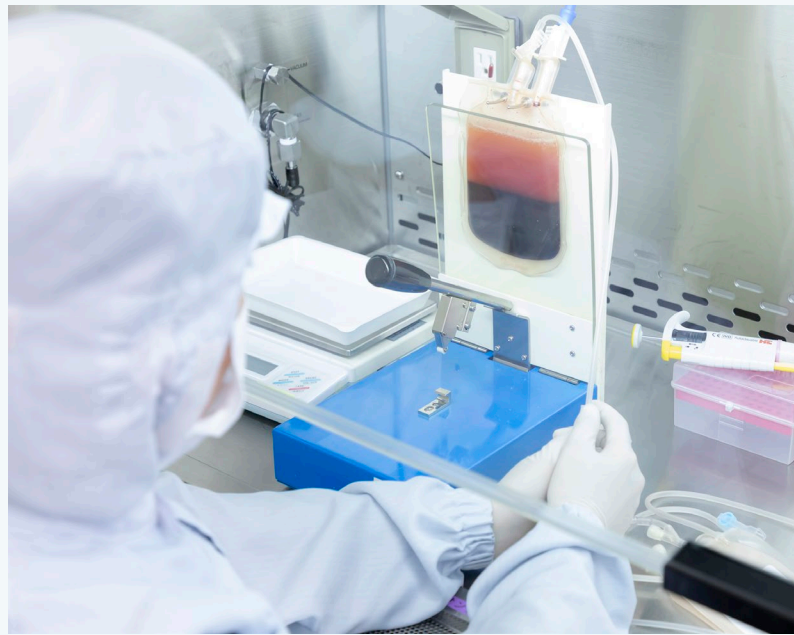
妊婦さん向けに生活情報等を提供するアプリ主催のオンラインセミナーと連携し、当社のさい帯血セミナーを実施

東京細胞処理センター / 横浜細胞処理センター

細胞処理能力 (東京・横浜CPC合計)

約2000件/月

IoTを活用した
最先端のデータ管理システム



第1 / 第2 / 第3 細胞保管センター

検体保管能力(第1～3センター合計)

約20万検体

さい帯血以外（さい帯、卵子等）の
様々な細胞も保管可能



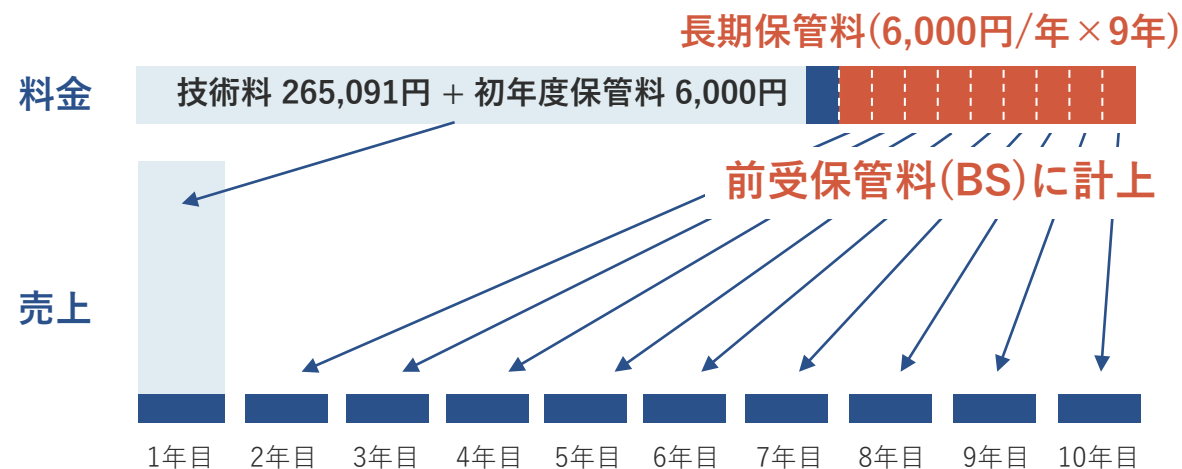
- ▶ さい帯・さい帯血を両方採取し、できるだけどちらかを保管。
新プランHOPECELL(ホープセル)は月々2,980円[※](税込)、両方保管しても月々3,980円[※](税込)の新料金プラン。
※120回分割/10年保管の場合
- ▶ 契約成立時の技術料 + 初年度保管料 = 当期P/L計上。
- ▶ 初年度を除く保管料(6,000円/年^(税別)) = 「前受保管料(BS)」に計上。翌年以降毎年売上に振替。

契約料金 (10年保管の場合、金額は全て税別)

	技術料	保管料	合計
ONEホーププラン (さい帯 or さい帯血の いずれか一方を保管)	265,091円	6,000円/年	325,091円
Wホーププラン (さい帯 and さい帯血の 両方を保管)	314,182円	12,000円/年	434,182円

2024年11月より、上記の新料金プランを開始
契約期間は、10年、20年から選択可能

例 さい帯血を10年保管する場合(合計 325,091円^(税別))



契約年数の割合 (2026年3月期)

20年 (21.8%)

10年 (74.0%)

5年 (4.2%)

さい帯血新規保管数シェア **99.9%**

民間さい帯血バンクの累計保管数 **95,821**件

STEMCELL研究所 **95,005**件

A社

▶ 民間さい帯血バンクは、厚生労働省へ「臍帯血取扱事業の届出」の提出を要請されており、2025年3月31日現在、同届出を行っている**民間さい帯血バンクは当社を含め2社**。

日本初の民間さい帯血バンク

	設立	累計保管数	新規保管数 (2024年度)
STEMCELL研究所	1999年	95,005件 (99.1%)	8,764件 (99.9%)
A社	2004年	816件 (0.9%)	12件 (0.1%)

(2025年3月31日時点 各社提供の、「さい帯血プライベートバンクの業務内容等に関する届出及び報告に係る実施要領」に基づく「事業実績に関する報告」より)

決算概況

01. 戦略テーマ別の進捗および成果

国内基盤強化

- 進捗**
- ▶ 新プラン「HOPECELL」の推進およびキャンペーン施策の実施リアル／オンライン両マーケティングチャネルでの集客強化
 - ▶ 保管細胞の活用を見据えたサービス展開および研究開発を推進
- 成果**
- ▶ キャンペーン効果による第4四半期の資料請求数の増加
 - ▶ さい帯血を用いた自閉症スペクトラム障害(ASD)に対する臨床研究において投与を実施
 - ▶ さい帯血を用いた自家iPS細胞の製造・保管プロセス開発に関する共同研究を開始
 - ▶ ファミリー上清®の申込数および投与数の増加

東南アジア展開の本格化

- 進捗**
- ▶ 戦略的パートナーとの合弁契約を締結
 - ▶ シンガポール子会社における人員採用、CPC物件契約および工事開始
- 成果**
- ▶ 東南アジア展開に向けた**事業基盤の構築が進展し**、本格展開に向けた準備が整う

経営基盤および株主還元の強化

- ▶ 連結決算への移行および株主優待制度の導入

02. 課題と対策

売上高は過去最高を更新するも、先行投資の影響により各段階利益は計画未達

- ▶ 通期連結業績予想に対する実績値は売上高△6.3%、営業利益△55.0%、経常利益△51.7%、親会社株主に帰属する当期純利益△51.3%、通期個別業績予想に対する実績値は売上高△6.4%、営業利益△41.5%、経常利益△38.2%、当期純利益△39.9%で着地
- ▶ シンガポール事業の本格稼働に向けた人員等の体制構築および積極的な賃上げ、経営体制強化により先行的に販管費が増加
- ▶ マーケティングの最適化および営業体制の再設計（基幹医療機関を起点としたネットワーク強化）により成約率を改善し、収益性の向上を図る

(単位：百万円)

	2026/03期	構成比
売上高	2,811	100.0%
売上総利益	1,712	60.9%
販売費及び一般管理費	1,509	53.7%
営業利益	202	7.2%
営業外損益	14	0.5%
経常利益	217	7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	155	5.5%
一株当たり 当期純利益(円)	15.44	—

前期比

当期第2四半期より連結決算へ移行したことによる、前期連結数値との比較なし

営業利益

中長期的な成長に向けた先行投資によるコスト増
(先行投資 内訳)

- ・シンガポール事業開始に向けた人員等の体制構築強化
競合他社の動向等も踏まえ、今後の市場開拓に向けた重要な投資局面と位置付け、先行的な投資を実施
- ・積極的な賃上げ、経営体制強化

シンガポール事業開始は2027/03期を予定
中長期的な成長を担う中核事業として展開

(単位：百万円)

	2025/03期 (単体)	構成比	2026/03期 (単体)	構成比	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	2,679	100.0%	2,806	100.0%	127	4.8%
売上総利益	1,692	63.2%	1,707	60.8%	15	0.9%
販売費及び 一般管理費	1,273	47.5%	1,444	51.5%	170	13.4%
営業利益	418	15.6%	263	9.4%	△155	△37.1%
営業外損益	13	0.5%	14	0.5%	4	45.0%
経常利益	428	16.0%	278	9.9%	△150	△35.2%
特別損益	136	5.1%	0	0.0%	△136	△99.8%
税引前 当期純利益	565	21.1%	278	9.9%	△287	△50.8%
当期純利益	385	14.4%	192	6.8%	△193	△50.2%

売上高

当第4四半期(1月～3月)も
第3四半期に引き続き、四半期と
して**過去最高**

営業利益

積極的な賃上げおよび経営体制強化
に伴う販管費増加により減益

当期純利益

前期において株式売却特別利益を
計上したことによるもの

**成約率の改善により収益性の
向上を図る**

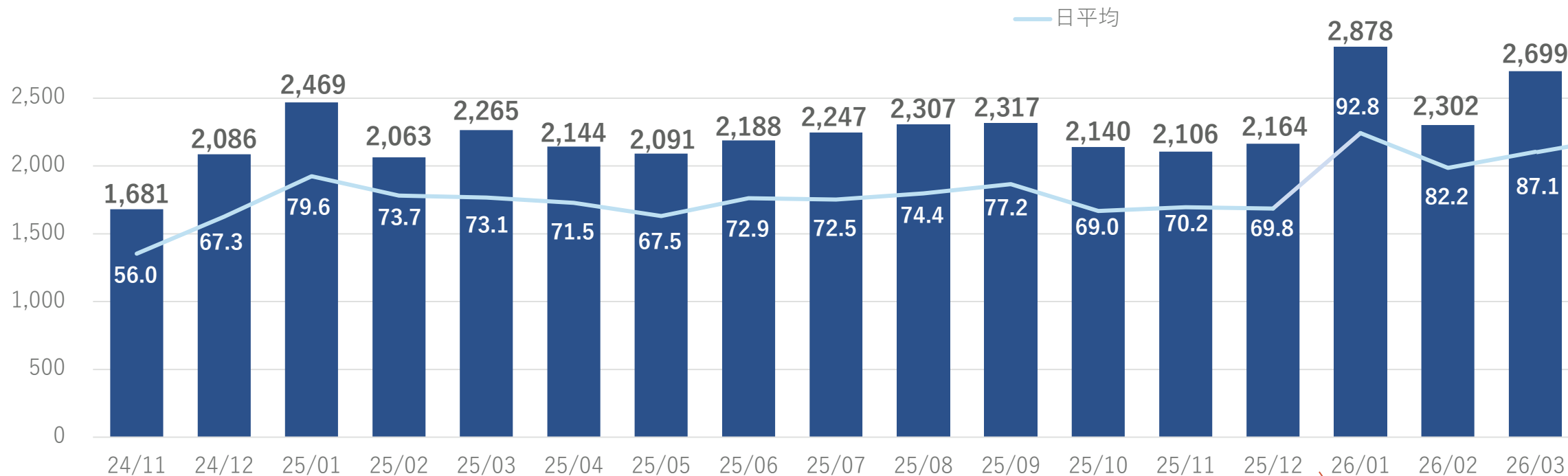
	2026/03期 (計画値)				2026/03期 (実績値)				2027/03期 (計画値)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
合計 保管検体数(件)	3,131	3,680	3,948	3,871	3,123	3,112	3,217	2,967	3,202	3,461	3,349	3,458
	14,630				12,419 (対計画比△15.1%)				13,470 (対前期比+8.5%)			
さい帯血 保管検体数(件)	1,842	2,165	2,322	2,277	1,843	1,856	1,938	1,720	1,821	1,968	1,905	1,967
	合計		8,606		合計		7,357 (対計画比△14.5%)		合計		7,661 (対前期比+4.1%)	
さい帯 保管検体数(件)	1,289	1,515	1,626	1,594	1,280	1,256	1,279	1,247	1,381	1,493	1,444	1,491
	合計		6,024		合計		5,062 (対計画比△16.0%)		合計		5,809 (対前期比+14.8%)	
	さい帯血保管者のさい帯保管比率※											
	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	67.7%	67.5%	66.0%	72.5%				

- ▶ リアル・オンライン双方の営業・マーケティング施策が想定を下回ったことに伴う、資料請求獲得数および成約率の計画比未達
- ▶ オンライン施策の効率改善に加え、産科施設ネットワークの再強化および全国のマタニティ・ベビー関連イベントへの出展・登壇によりリアル接点を拡充し、資料請求獲得数・成約率の改善を図る

※ 2024年11月より、さい帯保管がさい帯血保管の追加オプションであった旧プランから、さい帯・さい帯血をそれぞれ選択可能な新プランへ移行。2026年3月期は旧プラン契約が一部混在していたため参考指標として記載。2027年3月期計画より、当該比率はサービス利用状況を適切に示す指標ではないと判断し、記載を省略。

資料請求数

※該当月に当社サービスに興味を持ち、資料を請求した見込み顧客の総数



訴求点の全面見直し

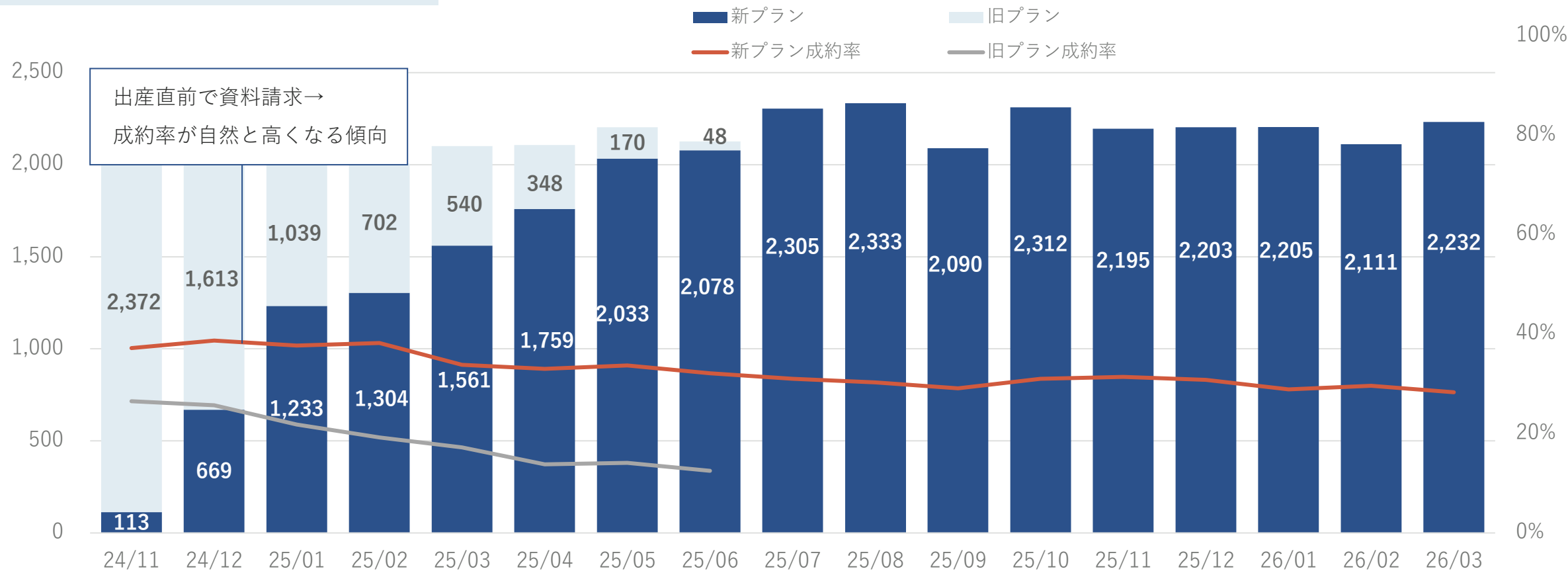
新プラン「HOPECELL」ローンチ、
新コンセプトで訴求するも不調

広告代理店の変更、
マーケティングの再構築

12/19～3/31において
最大66,000円分の
保管料無料キャンペーンを実施
資料請求数急伸

各月の出産予定者数と成約率

※該当月に出産予定日を迎える契約検討中または既契約の顧客の総数



新プラン 成約率	37.2%	38.7%	37.7%	38.2%	33.8%	33.0%	33.7%	32.1%	31.0%	30.3%	29.1%	31.0%	31.4%	30.8%	28.9%	29.6%	28.3%
旧プラン 成約率	26.5%	25.7%	21.8%	19.2%	17.2%	13.8%	14.1%	12.5%	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(単位：百万円)

	2026/03期 (実績)	構成比	2027/03期 (予想)	構成比	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	2,811	100.0%	3,100	100.0%	+288	10.3%
営業利益	202	7.2%	100	3.2%	△102	△50.7%
経常利益	217	7.7%	100	3.2%	△117	△54.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	155	5.5%	105	3.4%	△50	△32.7%
一株当たり 当期純利益(円)	15.44	—	10.32	—	△5.12	—

売上高 (対前期比)

+10.3%

営業利益

東南アジア事業立ち上げに伴う
先行投資を実施

中長期成長に向けた
先行投資フェーズ

成長戦略

- ▶ シンガポール事業の本格化を契機として「**国内事業の成長**」と「**東南アジア市場の開拓**」を当社成長戦略の2つの柱として明確化し、中期経営計画を策定
- ▶ 国内事業においては、**新規保管拡大と累積保管検体数の積み上がりによる継続的な保管料収益の拡大**を推進するとともに、シンガポール・インドネシアを中心とした**東南アジア事業を将来の収益の柱として確立**することで、中長期的な企業価値向上を目指す

(単位：百万円)		2026/03 (実績)	2027/03	2028/03	2029/03	2030/03
連結	売上高	2,811	3,100	3,800	4,600	5,500
	営業利益	202	100	429	740	1,000
	営業利益率	7.2%	3.2%	11.3%	16.1%	18.2%
国内事業	売上高	2,811	3,000	3,300	3,600	4,000
	営業利益	266	300	429	540	625
海外事業	売上高	—	100	500	1,000	1,500
	営業利益	△63	△200	0	200	375

保管 + 活用 → 保管率向上のサイクルへ

細胞の 活用領域の拡大

既存の臨床研究、米国EAP、ファミリー上清®
眼疾患治療、自家iPS細胞、第二種再生医療

さい帯・さい帯血の 保管価値の変化

- 従来** 将来の備えとしての保管
- 今後** 活用を前提とした保管

さい帯・さい帯血の 保管需要の拡大

実際の活用機会の拡大により
保管率の持続的上昇

さい帯血 **活用中** ※ Expanded Access Protocol; EAP

臨床研究、米国EAP※

- ▶ 脳性まひ、自閉症スペクトラム障害

国内最大級の 細胞保管基盤

さい帯・さい帯血

累計保管数



11万 検体

さい帯(培養上清) **活用・研究中**

ファミリー上清®

- ▶ 累計契約数 **38件** (2026年4月末時点)
- ▶ 提携クリニック拡大
- ▶ さい帯保管 **12,000** 検体超

新たな眼疾患治療の開発

- ▶ 実験開始に向けて準備進行中

さい帯血 **サービス化準備中**

自家iPS細胞の製造および保管

- ▶ プロセス確立済

さい帯・さい帯血 **検討進行中**

第二種再生医療

- ▶ 医療機関と具体化推進(国内・インバウンド含む)

先進的な研究開発・臨床研究の着実な進展

さい帯血

- ▶ **自閉症スペクトラム障害**に対する自家さい帯血を用いた治療法の開発 (大阪公立大学)
- ▶ **小児脳性麻痺など脳障害**に対する自家及びきょうだいのさい帯血を用いた臨床研究 (高知大学)
- ▶ **低酸素性虚血性脳症 (H I E)**に対する自家さい帯血を用いた多施設共同臨床研究 (大阪公立大学、他)
- ▶ 臍帯血を用いた**自家iPS細胞**の製造及び保管プロセス開発と臨床応用に関する検討 (株式会社iPSポータル)



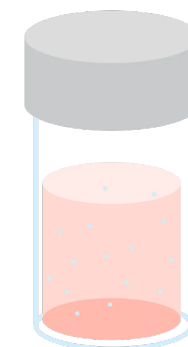
さい帯

自家さい帯由来の細胞を用いた**先天性形態異常 (口蓋裂等)**の組織を再生する治療法の開発 (東京大学)



培養上清

さい帯間葉系細胞由来培養上清を用いた**新たな眼疾患治療**の開発 (国際医療福祉大学、医療法人社団栄和会)



東南アジアさい帯血 banking 市場は構造的な高成長市場

出典：Credence Research (<https://www.credenceresearch.com/report/south-east-asia-umbilical-cord-blood-market>)

市場成長率

約**1,712**億円
(10.9億USD)

▶ 市場成長を支える背景

再生医療需要の拡大

中間層・富裕層の増加

政府支援・医療制度の整備

▶ 市場構造

東南アジア市場の中心
高保管率・高単価市場

医療ツーリズム市場

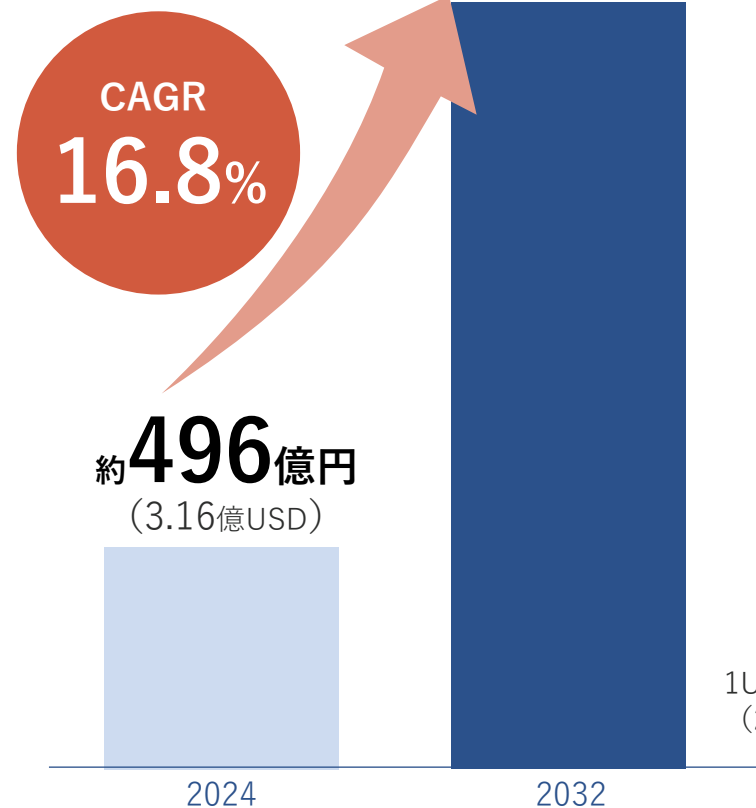
人口成長・所得向上を
背景とした成長市場

シンガポール

タイ・マレーシア

インドネシア

1USD=157.05円換算
(2026/5/8時点MUFG TTM)



東南アジア主要市場でトップシェアを目指す

シンガポール

想定市場規模

6,000件

(出生数3万人×保管率20%)

高保管率・
高単価市場



インドネシア

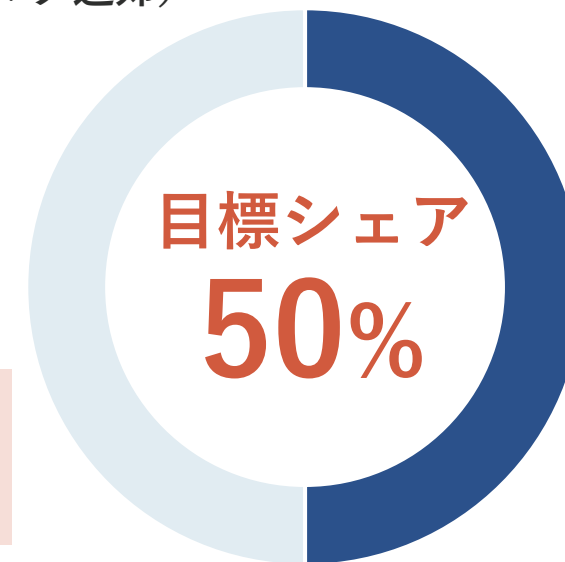
(ジャカルタ近郊)

想定市場規模

3,000件

(出生数30万人×保管率1%)

人口成長・所得向上
を背景とした成長市場



高単価市場と人口成長市場の両輪による中長期的な市場成長

2026年、東南アジア事業が本格始動

CPC物件外観

Photo courtesy of Mapletree Industrial Trust

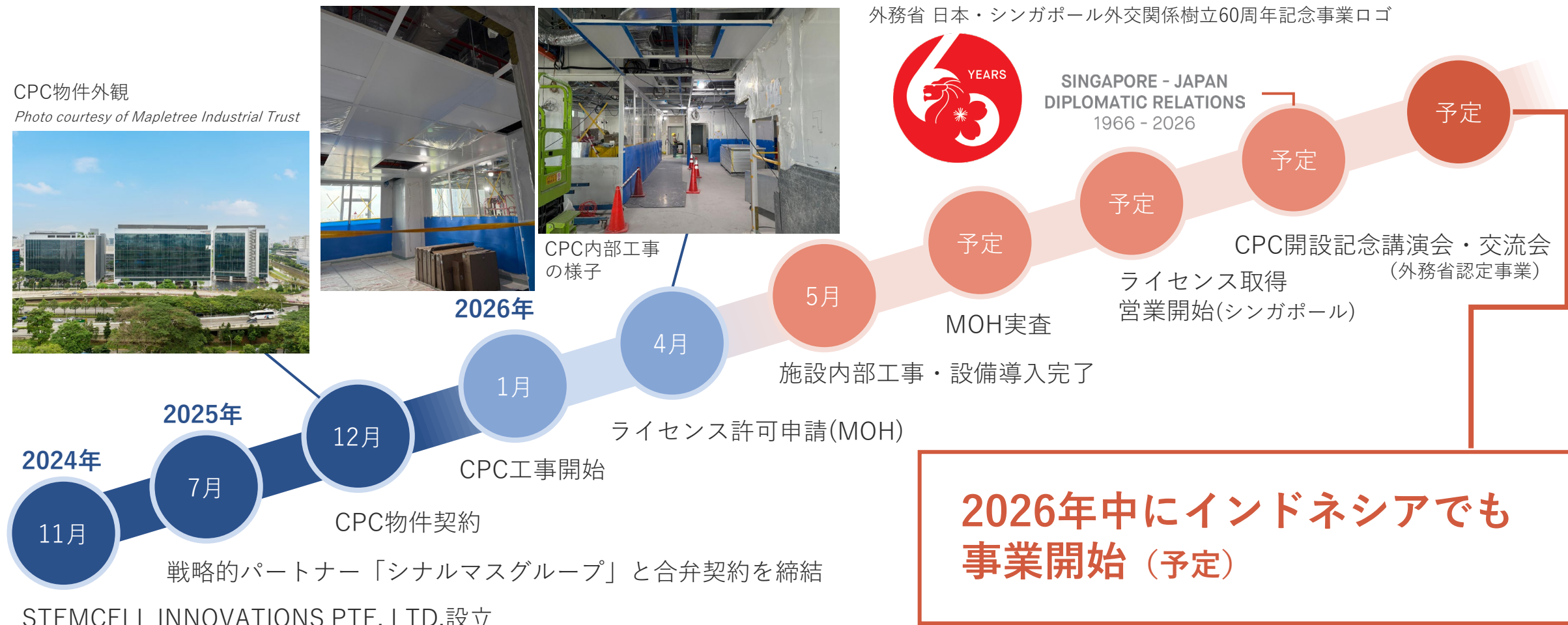


CPC内部工事の様子

外務省 日本・シンガポール外交関係樹立60周年記念事業ロゴ



SINGAPORE - JAPAN
DIPLOMATIC RELATIONS
1966 - 2026



2026年中にインドネシアでも
事業開始 (予定)

国内成長 + 東南アジア展開で現在比 **5倍**の事業規模へ

①国内事業の成長

+2.5倍

国内市場シェア99%

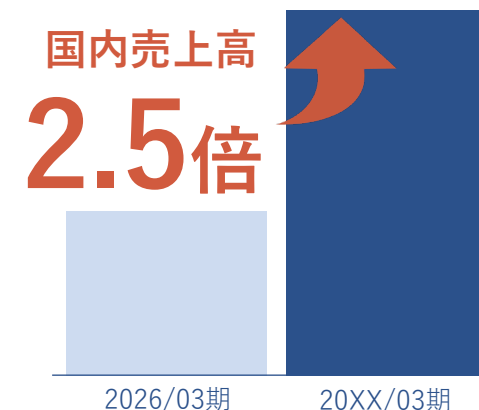
累計保管数11万検体

全国の医療ネットワーク

保管検体数 **20,000** 検体

保管率 **3** %

保管検体数の積み上がりが**将来保管料収益の拡大**に直結



②東南アジア事業展開

+2.5倍

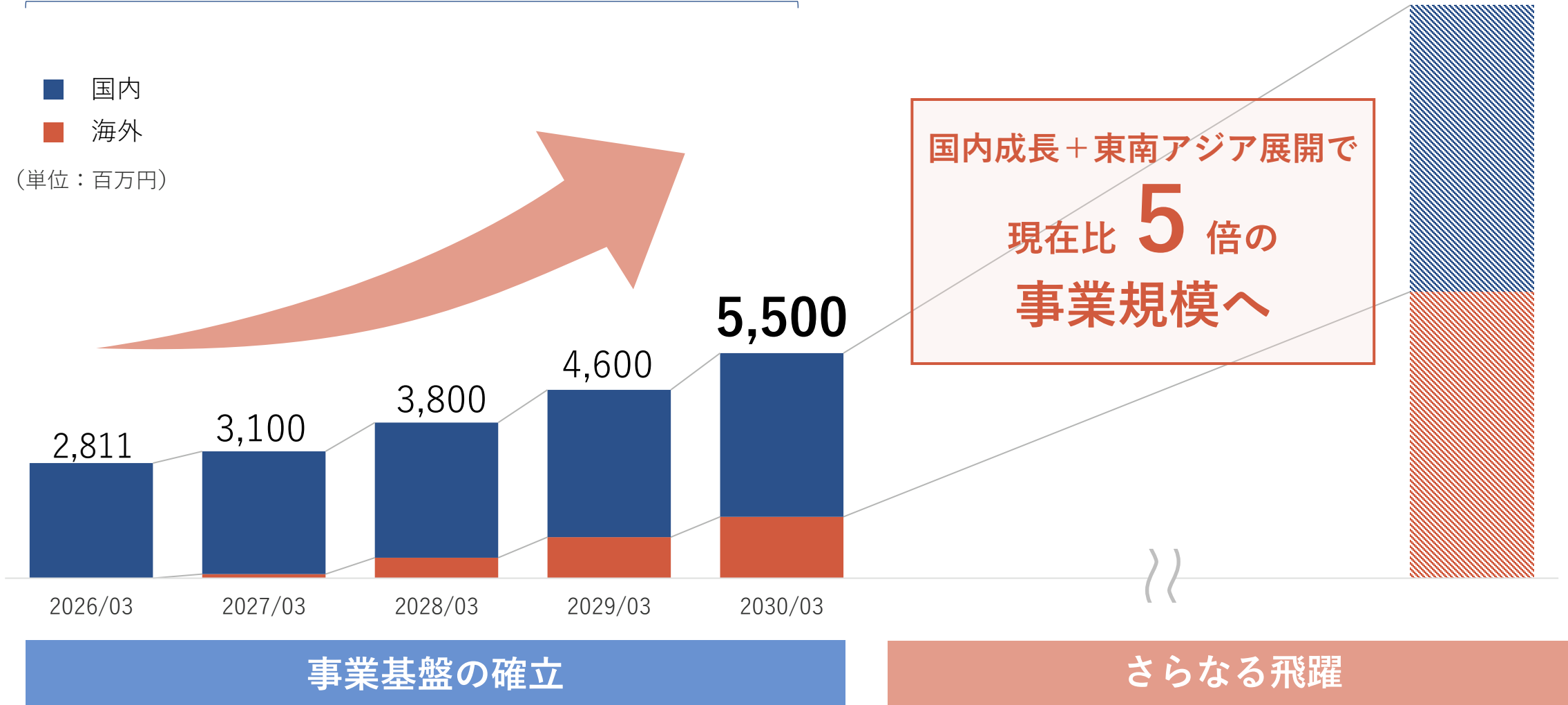
- ▶ 2026年、東南アジア(シンガポール・インドネシア)へ進出
- ▶ シンガポール・インドネシア市場シェア50%目標

国内成長分と**同等の事業規模**へ



中期経営計画

■ 国内
■ 海外
(単位：百万円)



事業リスク

主要なリスク	顕在化の可能性/ 時期	顕在化した 場合の影響度	リスク対応策
<p>「さい帯血」及び「さい帯」の再生医療分野での研究成果が想定通り進捗しない場合、治療効果が確認されない場合、または他に有効な治療法が出現した場合などは、保管目的に関する訴求力に影響し、新規保管者が減少する可能性があります。</p>	低/長期	大	<p>「さい帯血」及び「さい帯」を用いた新たな治療法の開発や応用拡大について、アカデミアや再生医療等提供医療機関をパートナーとし、事業開発パイプラインを複数設定し、継続的に「さい帯血」及び「さい帯」の可能性を訴求してまいります。</p>
<p>細胞バンク事業に係る法規制の改正・強化、新たな法規制が制定された場合、あるいは細胞の加工や施設の運用において予期しない逸脱や事故が発生した場合には、追加的な対応や事業への何らかの制約が生じることにより、当社の事業や業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	低/不明	大	<p>内部監査の実施及び第三者認証監査（ISO9001認証、AABB認証、プライバシーマーク制度）の導入により、法的規制への適合性と品質マネジメントシステムの健全性を定期的に確認しております。また、特に業界固有規制に関する動向を把握するために、学会や業界団体に入会し、積極的に情報を収集しております。</p>
<p>細胞培養加工施設における「特定細胞加工物製造許可」は、当社の主要な事業活動を継続する上で不可欠な許可であり、将来において、当該許可の取消等があった場合には、主要な事業活動に支障をきたすとともに、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。</p>	低/中長期	大	<p>構造設備基準への適合状況に関して、ISO9001に係る内部監査及びAABB査察（2年に1回）により、再生医療等安全性確保法やAABBで求められる基準への不適合事項がないか定期的に確認しております。</p>
<p>細胞処理センター及び細胞保管センター、ならびに処理作業に必要な試薬や長期保管用タンクの冷却用液体窒素は、当社グループの事業における必須のインフラ及びリソースです。自然災害等の不測の事態により、これらの稼働・供給が予期せず停止した場合、当社の事業や業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	低/中長期	大	<p>地震による建物の破損・倒壊、長期的な停電、試薬や液体窒素の納入の途絶に対し、新建築基準に適合した建物の選定、自社専用の非常用発電機の設置、重要度及び納期に応じた適切な在庫の確保により、リスク低減を図っております。</p>

※その他のリスクは有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください

会社概要

stemcell

INSTITUTE

あたらしい命に、
あたらしい医療の選択肢を。

うまれてくる命のために、そのご家族のために、

わたしたちができること。

それは、さい帯血をはじめ、

一生に一度きりの

命の財産をおあずかりすることです。

このうまれたての可能性が、

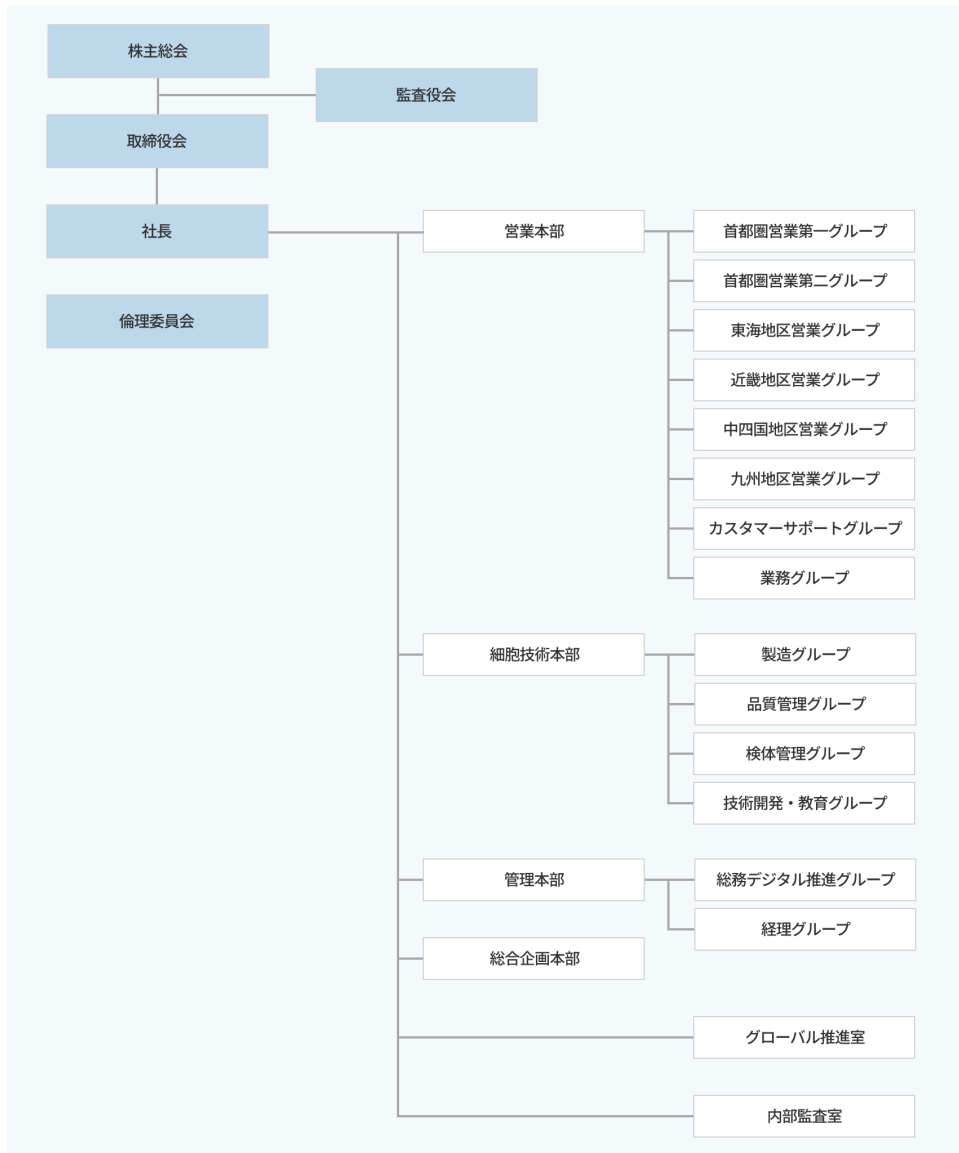
あたらしい医療の選択肢になる世の中へ。

これが、わたしたちステムセル研究所の願いです。



名称	株式会社ステムセル研究所 (英語名:StemCell Institute)
代表者	清水 崇文
設立日	1999年 8 月 5 日
資本金	7 億480万円
事業内容	周産期の組織に由来する細胞の処理及び保管を行う「細胞バンク事業」及びそれらの細胞を用いた再生医療の研究開発
所在地	<p>本社：東京都港区虎ノ門一丁目21-19 東急虎ノ門ビル 2 階</p> <p>東京CPC：東京都港区新橋五丁目22-10 松岡田村町ビル 1 階</p> <p>横浜CPC及び細胞保管センター（第1～第3）：神奈川県横浜市緑区白山一丁目18-2 ジャーマンインダストリーパーク</p> <p>事業所：名古屋オフィス / 大阪オフィス / 福岡オフィス</p>
グループ会社	STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD. (シンガポール)、株式会社ミルケア
連結社員数	<p>社員数 (常勤) : 136名 (男性:49名 女性:87名)</p> <p>非常勤・パート : 140名 (男性:10名 女性:130名)</p>
主要株主	株式会社日本トリム(71.24%)
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
主要取引銀行	株式会社三菱UFJ銀行
監査法人	有限責任あずさ監査法人

2026年 3 月末時点



代表取締役社長	清水 崇文
取締役執行役員CFO	茅野 圭 ※2026年6月24日開催の株主総会で選任予定
取締役(社外)	山田 智男
取締役(社外)	大久保 由美(独立役員)
常勤監査役(社外)	長江 賢(独立役員)
監査役(社外)	藤川 義人
監査役(社外)	森澤 夕子
執行役員	土山 寛史(営業本部長)
執行役員	佐藤 英明(細胞技術本部長)
執行役員	谷 勝弘(管理本部長)
執行役員	石井 衛(グローバル推進室担当)
顧問(医療)	関 博之(埼玉医科大学 名誉教授)

2026年5月末時点

Social (社会・人的資本投資)

E / S / G

女性の活躍 ※2026年4月時点

- ▶ 従業員の女性比率 **78.9%**
※契約社員・パート含む
- ▶ 女性管理職比率 **40.0%**
- ▶ 報酬総額の男女比率 **1 : 0.73**

出産・育児

- ▶ 育休後の復職率 **100%**
- ▶ 男性の育休取得率 **100%**

賃上げ(率)

- ▶ 2026年 **4.2%**
- ▶ 2025年 **6.2%**

働きやすい環境

- ▶ リモートワーク・時差出勤・育児期間中の時短勤務等
- ▶ 細胞処理センター(CPC)スタッフ向け昼食注文制度を導入(会社補助有り)
本社リフレッシュスペースの充実(一人用ソファ設置・BGM)

人材育成

- ▶ 新卒入社者研修・キャリア研修

健康と安全

- ▶ ストレスチェック・健康診断
- ▶ 長時間労働の防止及び上長への通知・指導
- ▶ 有給休暇の取得促進
- ▶ 全従業員を対象としたインフルエンザ予防接種の補助

- ▶ 2024年 **5.1%**
- ▶ 2023年 **4.5%**
- ▶ 2022年 **3.9%**

Governance (ガバナンス)

E / S / G

多様性・経営監視強化

- ▶ 女性役員比率 **43%**
女性役員1名を新たに選任予定※
- ▶ 社外役員比率 **71%**
役員7名のうち、社内役員は2名で構成※

※2026年6月24日開催の株主総会にて決議予定

Environment (環境)

E / S / G

環境保全

- ▶ 会社イベントによる胡蝶蘭等の祝花を「フェイクグリーン」に
- ▶ 文房具の共有化による無駄の削減と資源の有効活用
- ▶ オフィス全体での節電運動

年月	概要
1999年 8月	東京都港区に株式会社ステムセル研究所設立
1999年 9月	当社初のさい帯血を保管
2008年 3月	兵庫県神戸市において当社保管のさい帯血が、白血病の移植治療に利用される
2009年 4月	米国デューク大学で当社保管のさい帯血が脳神経疾患への再生医療に利用される
2011年 4月	東京都港区の細胞処理センターにて、ISO9001を取得
2013年 9月	株式会社日本トリム（東証一部）が当社株式の50.1%を取得
2016年 2月	東京都港区の細胞処理センターにて「再生医療等安全性確保法」に基づく、特定細胞加工物製造許可を取得
2016年 7月	品質管理向上のため、アメリカさい帯血協会（CBA）に加盟
2017年 4月	高知大学医学部附属病院が実施する「小児脳性麻痺等に対する再生医療提供計画」において、特定細胞加工物製造委託契約を締結
2017年 9月	厚生労働省健康局へ「臍帯血取扱事業の届出」を提出
2018年 9月	東京大学医科学研究所と「臍帯の臨床応用に向けた技術開発と保管体制構築」に関する共同研究を開始
2019年 7月	American Association of Blood Banks（AABB）認証取得
2020年 9月	東京大学医科学研究所及び東京大学医学部附属病院と自家さい帯由来細胞を用いた「周産期付属物由来細胞の臨床応用に向けた技術開発とバンキング体制構築」と「自家臍帯由来細胞を用いたティッシュエンジニアリングの研究開発」に関する共同研究契約を締結
2020年10月	高知大学医学部附属病院が実施する「小児脳性麻痺など脳障害に対する同胞間臍帯血単核球細胞輸血」および「小児脳性麻痺など脳障害に対する同胞間臍帯血有核細胞輸血」の臨床研究において、特定細胞加工物製造委託契約を締結
2020年10月	大阪大学大学院医学系研究科と他家細胞を用いた「臍帯組織由来幹細胞と半月板修復材を用いた新規半月板再生医療の開発研究」に関する共同研究契約を締結
2020年11月	大阪市立大学（現 大阪公立大学）を中心とする研究グループによる「低酸素性虚血性脳症（HIE）に対する自己臍帯血治療」の第II相多施設共同臨床研究において、特定細胞加工物（自己臍帯血細胞調整液）の製造業務委託契約を締結
2020年11月	慶應義塾大学医学部と「ヒト羊水幹細胞による周産期脳障害の細胞治療」に関する共同研究契約を締結

年月	概要
2021年 3月	「再生医療等安全性確保法」に基づく、特定細胞加工物製造許可を取得し、神奈川県横浜市に新細胞処理センター（横浜CPC）を開設
2021年 4月	日本初となる「さい帯（へその緒）組織保管サービス」の提供を開始
2021年 6月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2021年 6月	神奈川県横浜市に最新のIoT技術を採用した第2細胞保管センターを新設
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所グロース市場へ移行
2022年 4月	大阪大学大学院医学系研究科に共同研究講座「運動器スポーツバイオメカニクス学講座」を開設
2023年 5月	事業拡大に伴う本社機能の拡充および業務の効率化を図るため、東京都港区虎ノ門に本社移転
2023年 5月	事業拡大に伴い、神奈川県横浜市緑区に横浜オフィスを開設
2023年 5月	大阪公立大学と「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」に関する研究者主導臨床研究契約を締結
2023年 6月	さい帯由来幹細胞培養上清液製造サービスを開始
2024年10月	臨床研究等提出・公開システム（JRCT）にて、「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」研究者主導臨床研究の情報が公開
2024年11月	新ブランド「さい帯・さい帯血ファミリーバンク HOPECELL」をリリース
2024年11月	シンガポールに地域統括会社STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD.を設立
2025年 2月	新たな細胞処理及び保管センターの開設に向け、神奈川県横浜市に土地を購入
2025年 5月	神奈川県横浜市に3施設目となる第3細胞保管センターを新設
2025年 7月	東南アジア地域における細胞バンク事業の展開に向けたインドネシア最大級の複合企業体（コングロマリット）創業家ファミリーオフィスとの合併契約を締結
2025年 9月	株式会社iPSポータルと臍帯血由来自家iPS細胞バンキングサービスに関する共同研究契約を締結
2025年12月	学校法人国際医療福祉大学医学部眼科学教室および医療法人社団栄和会とさい帯間葉系細胞由来培養上清を用いた新たな眼疾患治療の開発に関する共同研究契約を締結
2026年 6月	シンガポールに細胞処理センターおよび細胞保管センターが完成

- 本資料は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらのリスクや不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済情勢が含まれております。
- 本資料の当社以外に関する情報は、一般的に公知と考えられるものに基づいております。
- 本資料は、いかなる有価証券の取得の勧誘行為を行うためのものではありません。

次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」の開示時期は、2027年6月を予定しております。